

2009 年新年会（茨城地区）報告

主催：日本技術士会 原子力・放射線部会

共催：日立技術士会、JAEA 技術士会

日時：2009 年 1 月 11 日（日） 15:15～18:00

場所：茨城県東海村 JAEA テクノ交流館リコッティ 1 階 第 3 会議室

参加者：27 名（日本技術士会：1 名、JAEA 関連：9 名、日立関連：14 名、原子力エンジニアリング（株）：1 名、原子燃料工業株式会社：1 名、高エネルギー加速器研究機構：1 名）

内容：

司会進行（林部会長）

1. 開会に先立ち

原子力・放射線部会員の分布は、大まかには茨城が 3 分の 1 となっているが、行事の多くは、東京開催であり、なかなか参加をしてもらうことが難しい。年に 1 回くらいは、茨城地区の行事を行おうということから、昨年より新年会を開催している。昨年は、15 名の参加であったが、今年は日立技術士会、JAEA 技術士会の共催とし 27 名の参加を戴いた。

2. 開会の挨拶（日立技術士会副会長、日本技術会理事：永田氏）

日立技術士会員は、OBを含めると 800 名程度であるが、原子力・放射線部門の技術士数は JAEA さんに遅れをとっている（笑）。日本技術士会では、CPD(継続研鑽)の統括に携わっている。

原子力・放射線部会は、産学官の連携がうまくいっている部門である。しかし、まだまだ内輪の会というところを脱していない。もっと、世の中に発信していかなければいけない。技術士は、企業や行政としては発信しづらいことも、技術士という立場では、発信が可能である。このようなことが技術士のミッションである。国のためという視点で活躍してもらいたい。これからが表に出るチャンスである。技術士が活躍することで、それぞれの企業が発展する。

3. 乾杯の挨拶（JAEA 技術士会会長：関氏）

今回のような機会は、技術士は、自己研鑽をしなければならないという点で良いと思う。仕事をリタイヤすると研鑽する必要はなくなるが、技術士ということで自己研鑽を続けている。

原子力・放射線部会の益々の発展を祈念して、「乾杯」。

4. 挨拶（日本技術士会参与：竹下氏）

日本技術士会の専務理事を 5 年間勤めさせてもらい、その期間中に原子力・放射線部門を作ることができた。原子力・放射線部会が設立されて 4 年が経つ。活用していくには、技術士を増やさないといけない。いろいろな場に働きかけていることに対して、敬意を表する。

1/9 の日本技術士会の賀詞交換会には環境大臣の斉藤鉄夫氏（技術士）も出席され、高橋会長からは、技術士は、社会に情報発信をしなければならない、また、これからは国際的な活動をしていかなければならないと言っている。また定款の見直しを行っている。

文科省からは、すでにやられている人もいるが、技術士に理科教育をもっとやってもらいたいと言われている。これからも活動する技術士であって欲しい。周囲の期待も大きいので、これか

らどんどんと、社会に対して発信していってもらいたい。自由な発信ができるのも技術士ならではである。また、専門分野だけの組織ではなく、多くの高いレベルの技術者が集まっているのが技術士会である。横断的なプロジェクトチームを作って活動することができるので、そのような活動も行っていきたい。

5. 集合写真撮影



6. 部会のトピックス紹介（原子力・放射線部会）

(1) 日本技術士会 原子力・放射線部会の活動（栗原幹事）

部会活動の4つの柱である「制度活用提言」、「技術士数確保」、「継続研鑽」、「広報活動」のそれぞれの活動状況等について紹介があった。

(2) 技術士活用の動き（佐川幹事）

原子力分野における技術士の取り組みについて、東大の班目先生からいただいたテーマに対する原子力・放射線部会の対応について紹介があった。

7. 伊藤裕氏による尺八の演奏

新春らしく、宮城道雄の「春の海」が演奏された。

8. 参加者の自己紹介及び要望事項等

参加者から自己紹介と意見要望等の発言があり、各々、質疑応答が行われた。

9. 閉会挨拶（原子力・放射線部会：阿部幹事）

まとめ： 昨年に引き続き2回目の開催であったが、参加者も増え活発な意見交換ができた。自己紹介及び要望事項の途中で閉会の時間となってしまう、昨年同様3時間では足りないという印象であった。次回は、もっと大きな会場で、意見交換の時間を増やすことが必要と思われた。

新春らしい尺八の素晴らしい演奏もあり、新年早々、原子力・放射線部会の益々の発展が期待できる良い機会であった。

以 上